

◆◆◆ 竜巻発生確度ナウキャスト及び雷ナウキャストの発表開始について

気象庁では、5月27日13時から、発達した積乱雲に伴う激しい突風を予報する「竜巻発生確度ナウキャスト」及び雷を予報する「雷ナウキャスト」を発表します。

同庁では、雨の即時的な予報として発表している「降水ナウキャスト」に加えて、発達した積乱雲に伴う激しい突風を予報する「竜巻発生確度ナウキャスト」及び雷を予報する「雷ナウキャスト」を発表することによって、急な強い雨や激しい突風、落雷等の激しい現象が発生した際の確な対応に有効だと考えています。

同庁は、平成18年に相次いで発生した竜巻による被害を踏まえ、竜巻など激しい突風に警戒を呼びかけるための監視・予測技術の開発を進めてきましたが、この「竜巻発生確度ナウキャスト」及び「雷ナウキャスト」は、これらの取り組みの成果として発表を開始するものとしています。

「竜巻発生確度ナウキャスト」は、気象ドップラーレーダーの観測などを利用して、竜巻などの激しい突風の発生する可能性を判定し、10km四方の格子単位で、60分先まで、10分刻みの移動予測を10分毎に行います。降水や雷とは異なり、竜巻などの突風はレーダーなどの観測機器で実体を捕えることができないため、「発生確度」という言葉を使って、ドップラーレーダー観測などのデータから推定した

「竜巻が現在発生している（または今にも発生する）可能性の程度」を、ふたつの階級で表示します。

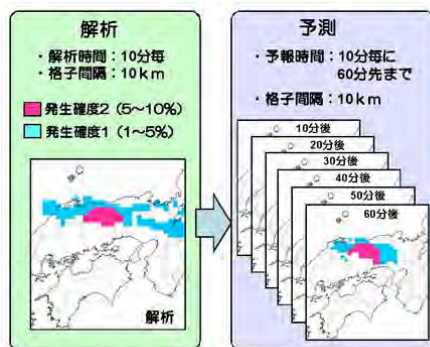


図1 竜巻発生確度ナウキャストの概要

表1 竜巻発生確度ナウキャストの階級

発生確度2	竜巻などの激しい突風が発生する可能性があり、注意が必要である。予報の適中率は5~10%程度、捕捉率は20~30%程度である。発生確度2となっている地方(県など)には竜巻注意情報を発表する。
発生確度1	竜巻などの激しい突風が発生する可能性がある。予報の適中率は1~5%程度と発生確度2の地域よりは低い。捕捉率は60~70%程度と見逃しが少ない。

「雷ナウキャスト」は、雷監視システムにより検出される雷の状況やレーダー観測をもとにした雷雲の解析を合わせて1kmの格子単位で解析を行い、60分先まで10分刻みの予測を10分毎に行います。雷ナウキャストでは、雷の激しさ及び雷の可能性を4つの階級で表現します。

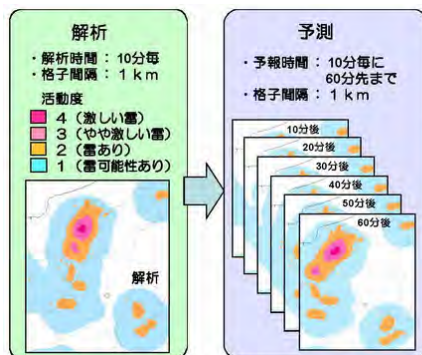


図2 雷ナウキャストの概要

表2 雷ナウキャストの階級

活動度4 (激しい雷)	落雷が多数発生
活動度3 (やや激しい雷)	落雷がある。
活動度2 (雷あり)	電光が見えたり雷鳴が聞こえる。落雷の可能性が高くなっている。
活動度1 (雷可能性あり)	現在は雷は発生していないが、今後落雷の可能性がある。

気象庁では、竜巻や雷について、気象情報や雷注意報、竜巻注意情報でも注意を呼びかけていますが、これらの情報と組み合わせ、この「竜巻発生確度ナウキャスト」や「雷ナウキャスト」が有効に活用されるものと期待しています。

(気象庁ホームページから)